

中野区
議会議員

中村延子

区議会レポート

発行 / 中野区議会民主党議員団

中野区中野 4-8-1 Phone: 03-3228-8876 Fax: 03-3389-8718

編集 / 中村延子事務所

中野区弥生町 4-36-6-402 Phone:080-6533-9450 Fax: 03-3380-3150
email: n@nakamuranobuko.jp

Vol.3

平成24年11月号



第3回定例会・決算特別委員会にて 総括質疑を行いました

中野区議会平成24年第3回定例会は、9月20日から10月23日までの日程で行われました。今定例会では、決算特別委員会で民主党議員団を代表し総括質疑を行いました。

行政評価について

平成23年度中野区一般会計の歳入総額は1091億2897万円余、歳出総額は1067億7313万円余で、前年度比歳入で9.3%増、歳出で8.8%増となっています。区は「景気も依然として厳しい状況が続いている中、引き続き歳出構造の見直しと歳入確保に向けた取組が必要な状況にある」としています。まさに、P D C AサイクルのC(チェック・評価)とA(アクション・改善)に今まで以上に



力を入れなければいけない状況で、行政評価が区政運営にとっても重要だと考えます。その立場から行政評価制度について質疑を行いました。

Q. 今年の外部評価では45分野、131施策について評価が行われ、外部評価委員会が更に掘り下げて審査・評価が必要だと判断した23施策について公開ヒアリングを行っている。外部評価委員会ではなぜこの23施策を抽出したのか説明がなかったが、今後求めていたきたいがどうか。

A. 傍聴されている区民にわかりやすい説明は非常に重要。改善、調整をしていきたい。

Q. 外部評価委員会から、行政評価シートの中にある成果指標が適切ではないとの指摘が多くみられる。外部評価は既に10年も行い毎年 P D C Aサイクルのもと改善を行ってきた中、こんなにもたくさんさんの成果指標に対する指摘があることをどのように考えているか。

A. 施策によっては数値化する事が非常に困難なものもある。各分野の1年間の取組の成果が客観的に判断できるような指標

となるよう今後も改善を進めていきたい。

Q. 外部評価委員会の傍聴者数は今年15名。その内、議員が4名、他区議員が1名。傍聴者数増加のために真剣に取り組んでいるのか疑問に思う。来年度以降、傍聴者を増やすための発信、また傍聴に来られた方にわかりやすい工夫をして欲しいが、区の考えは。

A. 来年度以降も区民へ周知のため J C Nにも協力を求めていきたい。HPを活用した広報の充実にも努めたい

がん対策について

がんは我が国において1981年から死亡原因の第1位であり、がんによる死亡者は年間30万人を超えています。診断と治療の進歩により早期発見・早期治療が可能になっていくことから死亡者減少には検診受診率の向上させ、早期に発見する事が極めて重要です。しかし、日本では受診率がとても低い状況にあります。

Q. がん検診受診率向上のため区が行っている取組は。

A. がん検診を含む区民検診のリーフレット、ポスターの工夫、国保特定検診の受信者全員に受診票と一緒にリーフレットを同

封、電話による検診申込み受付開始などがある。また、がん制圧月刊やピンクリボン活動の実施など。

Q. 現在、区では子宮頸がんワクチン助成を国によるワクチン接種緊急促進事業で行っている。これは2012年までとなっているが、引き続き助成を行うべき。国への働きかけも重要と考えるが、区の考えは。

A. 国の厚生科学審議会の中で定期接種化を前提とした議論が進んでいる。都区の関係課長会の場合などを通じて継続の必要性について伝えていきたい。

Q. 現在、子宮頸がん検診は「細胞診」で行われている。厚生労働省は、2013年度から子宮頸がんの原因であるヒトパピロマーウィルスのDNA検査を概算要求に盛り込むと報道があった。2013年予算に組み込まれた場合、細胞診とDNA検査の併用検診をいち早く実施すべきと考えるがどうか。

A. 国が検討を始めた事は承知している。今後、国の検討推移を見守りながら適切に対応していきたい。

その他、観光まちづくりについて質疑をさせていただきました。

視察してききました 出雲市と倉敷市を

出雲市 - 先進的な 子宮頸がん検診について

島根県では、がん対策推進条例を作り、がん対策に先進的に取り組んでいます。出雲市では出雲市がん撲滅対策推進条例を平成19年2月に制定し、島根県のモデル事業を行っています。その中で、出雲市ではこの子宮頸がんを制圧する目的で、検診方法を変更しました。従来通りの細胞診に加えて、がんの原因となるヒトパピロマーウイルスが存在するかを検査するHPV-DNA検査を導入し併用検診を行っています。細胞診だけでは、2割～6割ほどの見落としがありますが、併用検診ではほぼ100%に近い精度が認められたそうです。

出雲市の併用検診では、結果、細胞検診のみで見ると精密検査が必要と判断された方のうち、40%の方にHPV感染がありませんでした。従来の方だと精密検査が必要だと判断された方のうち、5人に2人は精密検査の必要がないということが明らかになりました。また、併用検診の結果、ともに陰性だった場合は、3年から5年子宮頸がんの進展がないことも明らか



左から、石塚真知子西東京市議、向めぐ美品川区議、中村延子、本目さよ台東区議、小川あきこ立川市議、稗田美菜子国立市議

かになりました。併用検診を行った結果、子宮頸がん検診を3年間隔に延長出来るようになったわけです。HPV-DNA検査を追加することで、導入時には一時的に検診費用が増加しましたが、90%以上の方はHPV-DNA検査が陰性であり、対象者の90%以上の検診が3年に一度になるため、財政的な負担も低減されました。視察をさせていただいた出雲市では、現在では検診助成費用も30%削減出来たそうです。この視察を踏まえ、先の第3回定例会では併用検診をいち早く導入すべきと区に要望しました。



倉敷市 - 倉敷市観光振興 アクションプランについて

岡山県倉敷市では、かつては美観地区や鷲羽山などを中心に人気を集め、瀬戸大橋が開通したS63年頃観光客の数はピークに達したものの、経済状況や旅行先の多様化などからその後減少傾向になりました。観光は地域の大きな波及効果をもたらす総合産業と位置付け、H16年観光振興アクションプランを策定しました。アクションプランの中では、倉敷市の課題と方針を明確にし、具体的な着地整備に関して具体的に取り組む実施事項をどの時期に誰が主体となって実施するかを記しています。

中野区では本年第2回定例会で、「中野区都市観光ビジョン」が提示されましたが、観光振興



倉敷市美観地区にて

計画は策定されていません。観光ビジョンの中では、協議会が設置検討をされており、その中で観光振興計画も策定検討をされている、と仮の仮の話になってしまっています。観光に力を入れている自治体はどことも観光振興計画を策定しており、中野区もスピード感を持って対応するよう要望しました。

中村延子ホームページを リニューアルしました！

11月よりホームページをリニューアルしました。これからはブログ等で区議会の報告や区内のイベント情報など、今まで以上に情報を発信していきたいと思います。

中村延子

なかむらのぶこ

略歴

趣味

音楽、料理、旅行、
フラワーアレンジメント
おとめ座／B型／酉年

1981年 9月2日生まれ 東京都中野区出身
東京文化小学校、東京文化中学校卒業
米国アニーライトスクール高等部卒業
米国クレアモント・ピッツァーカレッジ卒業
在学中、北京大学医学部へ短期留学
約4年間、民間企業に勤務
民主党衆議院議員手塚よしお秘書、
参議院議員蓮舫秘書として経験を積み、
2011年4月中野区議会議員選挙で
1530票をいただき初当選
役職：建設委員会・震災対策特別委員会